

イメージをより具体化することの重要性

中入 奏音（山形県立山形西高等学校2年）

1. 教職の魅力創造プラットフォーム会議に参加して

今回プラットフォーム会議に参加したことで、教員志望の高校生の1人として、教育に携わっている方たちのお話を聞くという、将来を決定していく上でとても貴重な経験をさせていただくことができました。教員を志望する人数が減少し、教員不足が嘆かれている現状で、高校生が教員という職に魅力を感じるためにはどうすればよいか改めて考えると、タイトルの通り「イメージの具体化」が重要であると思いました。学生である私達にとって、教員という仕事はとても身近にあるものです。しかし、身近すぎるゆえに、仕事のやりがいについて知る機会が少ないと感じています。私は、中学校2年生の頃からずっと教員を志望していましたが、考えることは理想の教員像ばかりで、教員になることでどんな経験ができるのか、想像することはあまりありませんでした。しかし、今回の会議に参加し、教員になったからこそ経験できたであろう様々な話を聞いたことで、実際に学校で教員として働く自分の姿を想像することができ、曖昧だった将来のイメージを明確にすることができました。このように、教員という職に興味を持つ人たちが、将来の自分が働く姿をイメージする機会があればいいと思います。それを実現するためには「学びのフォーラム」など、すでに行われているプロジェクトの認知度をさらに上げ、現時点では教員志望ではないものの、教育に関して興味があるというような学生に魅力を伝えていくのが最も効果的な方法であると思います。具体的な案となってしまいますが、方法の一つとして、現在公開されている教員の魅力創造プロジェクトのHPをもっと多くの人に認知してもらうことがあると思います。特に、学びのフォーラムのページはこれまでの活動がまとめられており、高校生も気軽に閲覧することができるため、魅力が伝わるきっかけになると思います。またHPに、1分程度で終わるような選択式の簡単なアンケートを設置すれば、高校生がどんなことに興味を持っており、どのような情報を求めているのか把握することができ、高校生も、直接意見を述べるよりも気軽に回答できるのではないかと思います。

2. 小学校教員体験セミナーに参加して

都合により、小学校へ出向いて実際の体験活動を行うことはできませんでしたが、事前オリエンテーションに参加して、教員になったあとにどのようなことが求められるのかなど、たくさんのことを学ぶことができました。会議の中でもお話させていただきましたが、教員志望の大学生の方とグループディスカッションを行うことができたのが、私にとって非常に良い経験となりました。高校時代は中学校教員を目指していたものの、大学に入学し学んでいく中で小学校の教員志望となった大学生の方のお話は、これまで中学校教員になることしか考えていなかった私にとって、広い視野を持つ必要があるのだと強く感じるきっかけとなりました。また、教員を目指す他校の生徒の方と、教員を目指したきっかけや今後について意見を交換できたことも刺激になりました。高校生は、普段の生活において同じような夢を持った人と深く語り合うという機会はあまりありません。特に他校の生徒の方とはまったく接点がないため、将来のことについて共感しあえたことはとても新鮮でした。上段の「教員の魅力創造プラットフォーム会議に参加して」において、私は教員という職の魅力を伝えるために、「知る」ことの重要性を述べましたが、教員の数を増やすためには、「話す」ことも大切であると考えます。一方的に情報を入手するより、双方向で意見をやり取りしたほうが、自分がぼんやりとイメージしていたものを言語化するため、自分の持っている考えを整理し、見つめ直すことができると考えたからです。「話す」ことは「聞く」ことよりもハードルが高く、すべての高校生が経験するということはあまり現実的ではありませんが、より多くの生徒が、周りとの交流を通して教員という職業を魅力的に思うことができれば

いいなと思います

最後に、会議やセミナーの参加することができて本当によかったと思っています。今後、進路などを決めていく際に、これらの経験をもとに、将来について考えていきたいと思っています。